

用語解説

アオコ

植物プランクトン的一种である藍藻類の俗称。窒素やりん分の多い富栄養湖沼において夏から秋にかけて異常繁殖して湖沼水を緑色に変色させる。

アオコが発生すると透明度が低下したり、着臭等により上水道への利用が不適当となる。さらにアオコが死滅する際、悪臭が発生するとともに水中の溶存酸素を奪うため水産や観光上重大な被害をもたらす。海洋における赤潮に相当する。

悪臭物質

悪臭の原因となる物質のこと。悪臭防止法では、アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素をはじめとする22物質を特定悪臭物質として定め、規制の対象としている。

赤潮

海域における富栄養化現象の一つで、海中の微小な生物（主に植物プランクトン）の異常増殖により海面が変色する現象をいう。赤色に変色することが多いが、プランクトンの種類により黄褐色や緑色などに変色することもある。主として、夏季に多発し、魚介類のエラを詰まらせたり、酸欠などの悪影響を及ぼすこともある。

アスベスト（石綿）

建築物の耐火被覆材、保湿材、吸音材及び自動車用ブレーキ材等として幅広く使用されており、微細な繊維の状態で容易に大気に浮遊し、これを多く吸入するとアスベスト肺、肺ガン、中皮腫等の健康被害がある。

暗騒音

ある場所において特定の音を対象として考える場合に、対象の音がないときのその場所における騒音を、対象のものに対して暗騒音という。

例えば、街頭騒音は電車の音、自動車の音、街頭放送など多くの音と一緒に存在するが、この中のどれか1つを測定の対象とする場合それ以外はすべて暗騒音となる。したがって、測定の対象としている音のレベルより暗騒音の方が大きい場合もあり得る。

R D F (Refuse Derived Fuel)

産業廃棄物や一般廃棄物の中から選別した可燃物を、粉碎、粒度調整、成形固化などの加工により製造した固形燃料をいう。

硫黄酸化物（SO_x）

石油などの硫黄を含んだ燃料が燃焼して生じる汚染物質である。一般的に燃焼過程で発生するのは大部分が二酸化硫黄（SO₂）であり、無水硫黄（SO₃）が若干混じる。

硫黄酸化物は、人の呼吸器に影響を与えたり、植物を枯らしたりする。

一酸化炭素（CO）

一般には、燃料の不完全燃焼によって発生するが、都市における最大の発生源は自動車の排出ガスである。一酸化炭素は、血液中のヘモグロビンと容易に結合して、呼吸困難を引き起こす。

上乗せ基準

ばい煙または排出水の排出の規制に関して、国で定める全国一律の排出基準または排水基

準ではその地域の人の健康を保護し、または生活環境を保全することが十分でないと認められるとき、全国一律の基準にかえて適用するものとして都道府県が条例で定めた、より厳しい排出基準または排水基準をいう。

栄養塩類

植物プランクトンや海藻が増殖するために必要な物質で、窒素、りん等の塩類の総称である。

オキシダント（光化学オキシダント）

大気中の窒素酸化物や炭化水素が太陽の紫外線を受けて化学反応を起こして発生する二次汚染物質で、オゾン、PAN（Peroxy-acetylnitrate）等の酸化物物質の総称である。

このオキシダントが原因で起こるいわゆる光化学スモッグは、日ざしの強い夏季に多く発生し、目をチカチカさせたりすることがある。

汚濁負荷量

河川水を汚濁する物質の総量をいい、汚濁負荷量＝水質×水量によって計算される。水質汚濁は水質と水量に密接な関係があり、水質汚濁防止対策のためには、どれだけの汚染物質が入っているかという汚濁負荷量を正確に把握し、どれだけ削減すれば河川がきれいになるかという削減負荷量を調べなければならない。

汚泥

工場排水等の処理後に残る泥状のもの及び各種製造業の製造工程において生ずる泥状のものであって、有機質の多分に混入した泥のみを指すのではなく、有機性及び無機性のものすべてを含むものである。

オゾン層の破壊

オゾン層は、地表から約10～50Kmの成層圏に存在し、皮膚ガンや白内障の原因となる有害な紫外線（UV-B）を吸収し、地球上の生物を保護している。

フロン等は、化学的に安定した物質であるため、大気中に放出されると分解せずに成層圏に達し、太陽からの強い紫外線を浴びて分解して塩素原子（臭素原子）を放出し、オゾン層を破壊することが問題となっている。

外部被ばく線量

空気中や土壌など人体の外部に存在する放射線物質からの被ばく線量をいう。

化学的酸素要求量（COD，Chemical Oxygen Demand）

水の汚染度を示す重要な指標であり、水中の被酸化性物質を酸化剤（過マンガン酸カリウム）で酸化し、その際に消費される酸素量で表わす。数値が高い程、汚染が進んでいる。

CODは海域及び湖沼の水の汚染状況を表わすのに用いられる。

核燃料サイクル

原子力発電所のウラン燃料は、採鉱、精錬、転換、濃縮、再転換、成型加工という工程を経て核燃料となり、原子炉で使用される。使用済みの核燃料中に含まれる燃え残ったウランと新たに生成されたプルトニウムは、使用済燃料再処理施設で化学処理することにより回収され（再処理）、再び核燃料に加工して使用することができる。このような核燃料の循環する流れは核燃料サイクルと呼ばれている。

核燃料物質

原子炉の燃料となり得る核分裂性物質のことで、法的には、天然ウラン、核分裂性を有するウランの含有率が天然ウランよりも低い劣化ウラン、天然ウランよりも高い濃縮ウラン、プルトニウム、トリウム、ウラン233及びこれらの化合物をいう。

核融合

重水素、三重水素などの軽い原子核が融合して、より重い原子核に変わる現象。融合の際、大きな熱エネルギーが放出されるため、このエネルギーを利用した発電技術の開発に関する研究が進められている。

WECPNL（加重等価平均感覚騒音レベル）

Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Levelの略で、航空機騒音測定、評価のために考案されたもので航空機騒音の特異性、継続時間の効果、昼夜の別等を加味した騒音のうるささの単位である。

環境基準

大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件についてそれぞれ、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として、国が定めた基準。環境基準は行政上の目標であり、直接に工場等を規制するための規制基準とは異なる。

環境影響評価（環境アセスメント）

事業の実施が環境に及ぼす影響のうち公害の防止及び自然環境の保全に係るものについて、事前に調査、予測及び評価を行い、その結果を公表すること。

環境カウンセラー

環境保全に関する活動を行おうとする市民や事業者に指導・助言をおこなう者のうち、環境庁が定めた要件を満たし「環境カウンセラー」として登録された者。

環境管理・監査（システム）

環境管理システムとは、環境に関する経営方針（環境保全方針）を体系的・継続的に実行し、企業が環境に与える影響を低減するための仕組みのこと。

環境監査システムとは、環境管理システムが合理的に機能しているかをチェックし、その結果を関係者に報告する仕組み。

環境管理・監査システムの代表的なものとして、国際標準化機構（International Organization for Standardization）が国際規格として定めたISO14000シリーズがある。

98%値

年間の日平均値の全データをその値の小さいものから順に並べ、 $0.98 \times n$ 番目のデータの値が98%値である（ n は、日平均値のデータ数）。

二酸化窒素の環境基準適合状況の判定に用いる。

クローズドシステム

排水、廃棄物等を工場外に出さずに、工場内で循環し、回収する閉鎖系をいう。

グレイ（Gy）

放射線の量を表わす単位の一つで、物質による放射線のエネルギー吸収を表わす単位であ

る。

1ミリグレイは1グレイの1/1000である。

K 値規制

施設ごとに煙突の高さに応じた硫黄酸化物許容排出量を求める際に使用する大気汚染防止法で定められた定数である。K 値は地域ごとに定められており、施設が集合して設置されている地域ほど規制が厳しく、その値も小さい。

健康項目

水質汚濁物質の中で、人の健康に有害なものとして定められた物質。主なものとしては、シアンや蓄積性のある重金属類（カドミウム、水銀、鉛など）、科学技術の進歩で人工的に作り出した物質（PCB）などがある。

環境中の濃度については、人の健康の保護に関する環境基準により物質ごとに定められている。

工場などからの排水中に含まれる有害物質の量は、物質ごとに排水基準として排出許容限度が定められている。

高温ガス炉

750 以上の高い温度を取り出すことができる原子炉。熱効率や安全性に優れているとされ、発電用のほか、高温の熱を利用して他の工業分野に応用できる。

光化学スモッグ（オキシダントの項参照）

公害

公害とは、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下及び悪臭によって人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることをいう（環境基本法第2条第3項）。

降下ばいじん

大気中の粒子状物質のうち、自己の重量により、または雨滴に含まれて地上に落下するばいじん、粉じんその他の不純物をいう。

鉍さい

主に製鉄業の溶鉍工程（高炉、平炉、転炉、電気炉等）において生ずる残さいで、高炉スラグには水砕スラグと徐冷スラグがあり、徐冷スラグは路盤材等に利用されている。

国際環境自治体協議会（イクレイ：ICLEI, International Council for Local Environmental Initiative）

国連環境計画（UNEP）、国際地方自治体連盟（IULA）、革新外交センター（CLD）の三者により、1990年に設立された地方自治体の国際環境協議機関であって本部はカナダ。会員同士の情報交換、国際会議、国際協力事業などを実施することによって、地球環境の保全を目指している。

1998年4月現在、56ヶ国、320自治体等が加入しており、日本からは本県を含め14都道府県、42市区町村が加入している。

公共用水域

水質汚濁防止法で「河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれ

に接続する公共溝渠，かんがい用水路その他公共の用に供される水路をいう。ただし，下水道法で定めている公共下水道及び流域下水道であって，終末処理場を有しているもの，また，この流域下水道に接続されている公共下水道は除く。」とされている。

最終処分

廃棄物を自然環境に還元すること。これには埋立処分，海洋投入処分があり，法令により一定の処理基準が定められている。

最終処分場には，一般廃棄物の処理施設としてのものと産業廃棄物の処理施設のものとがあり，後者には安定型処分場，管理型処分場及びしゃ断型処分場がある。

コプラナーPCB

PCB（ポリ塩化ビフェニール）のうち，塩素原子がつく位置によってダイオキシン類と同じく平面構造（＝コプラナー）となったもの。

三点比較式臭袋法

臭気の測定法は機器分析法と嗅覚測定法とに大別することができる。機器分析法が臭気成分の分析を主な目的とするのに対し，嗅覚測定法は臭気の質と，その強さの測定を目的としておこなわれ，その一つが三点比較式臭袋法である。これは，悪臭を含む空気が入っている袋一つと，無臭の空気だけが入っている袋二つの合計三つの袋の中から，試験者に悪臭の入っている袋を当ててもらう方法である。6人以上の試験者によって行い，袋の区別がつかなくなるまで希釈したときの倍数をもって臭気の強さを示す。

ザルツマン係数

二酸化窒素の測定るとき用いられる用語で，NO₂（二酸化窒素）のNO₂⁻（亜硝酸イオン）への交換係数をいう。昭和48年5月の環境基準設置の際0.5から0.72に変更することとされたが，その後の科学的知見により，さらに0.84となった。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち，燃え殻，污泥，廃油，廃酸，廃プラスチック類等法令で定められた19種類の廃棄物をいう。

産業廃棄物は，排出事業者の責任において処理しなければならないこととされており，他者に委託して処理する場合には産業廃棄物処理業の許可を受けた業者に委託しなければならない。

酸性雨

工場や自動車から出された硫酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質が雨水に取りこまれて強い酸性を示す雨のことをいい，一般にはpHが5.6以下をいう。

シーベルト（Sv）

放射線の量を表わす単位の一つで，人体への放射線による影響の程度を表わす単位である。1ミリシーベルトは1シーベルトの1/1000である。

自然環境保全地域

高山性植生，亜高山性植生，優れた天然林等のうち，自然的社会的諸条件からみて，その自然環境を保全することが特に必要な区域として，自然環境保全法または県自然環境保全条例に基づき指定した地域をいう。

自然公園

優れた自然の風景、傑出した自然景観、野生のままの動植物相などを含む広大な自然地域を保護するとともに、人々の野外レクリエーションの利用に供し、また自然の保護を教化する公園で、自然公園法または県立自然公園条例に基づき指定する区域をいう。

自然公園には、国が指定する国立公園、国定公園のほか、県が指定する県立自然公園の3種類がある。

自然放射線

天然に存在するさまざまな放射線をまとめて自然放射線と呼んでいる。ウランなど天然に存在する放射性物質からの放射線や宇宙線などがあり、地球が誕生した時から存在している。

自動車排出ガス

自動車の内燃機関から排出されるガスをいう。その排出ガス中には汚染物質として、一酸化炭素、炭化水素、鉛化合物、窒素酸化物、粒子状物質がある。

浄化槽

水洗し尿を沈でん分離あるいは微生物の作用による腐敗または酸化分解等の方法によって処理し、それを消毒し、放流する施設をいう。水洗し尿のみを処理する施設を単独処理浄化槽、水洗し尿及び生活雑排水（厨房排水、洗たく排水等）を一緒に処理する施設を合併処理浄化槽という。

水域類型

水質汚濁に係る環境基準のうち、BOD、COD、窒素、りんなどの生活環境の保全に関する環境基準については、河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた類型を設けている。各公共用水域に水域類型のあてはめを行うことにより当該水域の環境基準が具体的に示される。

生活環境項目

水質汚濁物質の中で、生活環境に悪影響を及ぼすおそれのあるものとして定められている項目であって、pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数などが定められている。

環境基準は、河川、湖沼、海域別に、水道、水産、農業用水、工業用水、水浴などの利用目的によって基準が定められ、排水基準においても健康項目と同様に項目別に定められている。

生物化学的酸素要求量（BOD、Biochemical Oxygen Demand）

水中の有機物が微生物により分解されるときに消費される酸素の量をいう。一般にBODが大きいと、その水の有機物による汚濁が進んでいることを示す。BODは河川の水の汚染状況を表わすのに用いられる。

生物の多様性

「生物の多様性」とは、すべての生物の間の変異性をいうものであり、多様な生態系が存在するという「生態系の多様性」、多様な種が存在すること、すなわち、全地球的に種の絶滅が防止され、個々の生態系が多様な種から構成されているという「種間の多様性」、同じ種においても、多様な地域的個体群が存在することを含め、同じ種の中でもそれぞれの個体が有している遺伝形質が異なるという「種内の多様性」の3つのレベルの多様性をいう。

世界環境デー・環境月間・環境の日・地球環境保全行動の日

1972年6月5日から開催された、国連人間環境会議において6月5日を「世界環境デー」と定めた。日本では、6月5日を初日とする一週間を「環境週間」とし、6月を「環境月間」とし

て設定した。環境基本法において、6月5日を「環境の日」と定め、茨城県地球環境保全行動条例では、6月5日を「地球環境保全行動の日」として定めている。

積算線量

熱蛍光線量計という放射線測定器をある期間野外に設置し、測定した放射線の量である。測定結果は外部被ばく線量の推定評価にも用いられる。

水素イオン指数（pH）

水素イオン濃度を表わす指数で、pH7が中性で、これが7より小さくなれば酸性が強くなり、大きくなればアルカリ性が強くなる。

線量当量

人体に放射線が当たった場合の線量が同じであっても、放射線の種類によってその影響が異なることから、影響の度合いを同じ尺度で表わすためにつくられた単位である。単位はシーベルトである。

総量規制

ある地域内で排出される汚染物質を、その地域全体の総量で規制する方式をいう。法による規制のうち、大気については硫黄酸化物・窒素酸化物、水質については化学的酸素要求量について、一定の地域を指定してこの方式を実施している。

大腸菌群数

大腸菌は、人間または動物の排泄物による水の汚染指標として用いられている細菌である。大腸菌には、温血動物の腸内に生存しているものと、草原や畑などの土中に生存しているものとがあるが、これを分離して測定することが困難なので、一括して大腸菌群数として測定している。

炭化水素（HC）

塗料・印刷工場、重油等の貯蔵タンク、自動車等から主に発生し、窒素酸化物とともに光化学オキシダントの原因物質の一つである。

地球温暖化

近年、化石燃料の燃焼等の人間活動の拡大に伴い、大気中の二酸化炭素等の温室効果ガス濃度が上昇している。その結果、近い将来地球の気温が上昇して気候変動や海面上昇等が起こり、生活環境や生態系へ大きな影響を及ぼすことが懸念されている。

温室効果ガス濃度が現在の増加率で上昇した場合、21世紀末までに地球の平均気温は約2度上昇し、海面も約50cm上昇すると予測されている。

窒素酸化物（NO_x）

窒素酸化物は、石油、ガス、石炭等燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等、多種多様である。

燃焼の過程では、一酸化窒素（NO）として排出されるが、これが徐々に大気中の酸素と結びついて二酸化窒素となる。窒素酸化物は、それ自体有害である。

着地濃度

煙突から排出される煙は、ある速度、温度をもっているため、混合、拡散されながら上昇し、風下方向へ運ばれ、ある時間たつと地表へ到達する。そのときの地表面の濃度を着地濃度

度という。

中間処理

廃棄物の最終処分に先立って、その安定化・減量化のために行う前処理で、焼却、中和、溶解、脱水、破碎、圧縮等がある。

鳥獣保護区

野生鳥獣の保護、繁殖を図るために狩猟など鳥獣の捕獲を禁止する区域であり、この区域では、巣箱や給餌施設等を積極的に設置するほか、特に鳥獣の保護繁殖を図る必要があると認められるところを特別保護地区に指定して野生鳥獣の生息に影響を及ぼす行為を規制する。

積替保管

廃棄物の排出事業所から中間処理施設又は最終処分場に運搬する途中で、その廃棄物を他の運搬車両等に積み替えたり、一時保管しておくこと。

TDI

人が生涯摂取しても、人体に及ぼす健康影響がないと判断される1日、体重1kg当たりのダイオキシン類の摂取量。耐容1日摂取量 (Tolerable Daily Intake)。

TEQ

毒性等量 (Toxicity Equivalency Quantity)。ダイオキシン類の毒性を評価するため、ダイオキシン類の量を2, 3, 7, 8-TCDDの量に換算した量として表記する際の符号。

デシベル (dB)

音の強さなどの物理量がある標準的な基礎量と対比して、相対的な比較検討を行うのに用いる単位のことであり、騒音や振動等のレベルを表すのに用いる。

騒音を耳の感覚に合うように補正した音の「大きさ」をはかる単位をデシベル (dB) という。

振動の場合は、感覚に合うよう補正した鉛直振動加速度の「大きさ」をはかる単位をdBといっている。

テレメータシステム

大気汚染監視テレメータシステムとは、環境濃度等自動測定機で測定したデータを、無線や専用電話回線を使用して監視室に送信し、得られたデータを集中管理するシステムをいう。このシステムは、現在、環境監視用と発生源監視用の2種類がある。

低公害車

従来のガソリン車やディーゼル車に比べて、NOx、粒子状物質、CO2といった大気汚染物質や地球温暖化物質の排出が少ない、または全く排出しない自動車のこと。

主なものとして、電気自動車、天然ガス車、メタノール車、ガソリンエンジン等と電気によるモーターを組み合わせたハイブリッド車などがある。

特別管理一般廃棄物

一般廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染性その他の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有するものとして法令で定めるものをいう。

特別管理産業廃棄物

産業廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染性その他の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有するものとして法令で定めるものをいう。

75%値

年間の日平均値の全データをその値に小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目 (n は、日平均値のデータ数) の値 ($0.75 \times n$ が整数でない場合は、端数を切上げた整数番目の値)。BOD やCOD の環境基準適合状況を判定するときに用いる。

熱蛍光線量計 (TLD)

放射線を受けた物質を加熱した時に、受けた放射線の量に比例して光を出すことを利用した放射線測定器。

ng

ナノグラム。10億分の1グラムのこと。

Nm³/h (ノルマル立方メートル毎時)

温度が零度、圧力が1気圧の状態に換算した時間当たりの気体の排出量などを表す単位。

2 %除外値

年間の日平均値の全データについて、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した最高値が2 %除外値である。

二酸化硫黄，浮遊粒子状物質等の環境基準適合の判定に用いる。

被ばく線量

放射線が人体に及ぼす影響の程度を表わす。空気中や土壌などに含まれる放射性物質により、人体の外側から受けるものを外部被ばく線量、人体が体内へ取り込んだ飲食物などに含まれる放射性物質により、体の内部から受けるものを内部被ばく線量という。

pg

ピコグラム。1兆分の1グラムのこと。

ppm

parts per million の略で、100万分の1 を表わす単位で、濃度や含有率を示す容量比、重量比のこと。1ppmとは、大気汚染物質の濃度表示では大気1m³ の中にその物質が1cm³ 含まれていること、また水質汚濁物質の濃度表示では水1m³ (1トン) の中にその物質が1cm³ (1g) 含まれていること。

PPP

Polluter pays principle の略で、汚染者負担の原則と訳されている。

これはOECD (経済開発協力機構) で確定された考え方で、環境汚染をひき起こした原因者が自分の費用負担で原因の解決を行うべきことである。公害健康被害補償制度等を通じてPPP の考え方が実現されている。

富栄養化

海洋や湖沼で栄養塩類 (窒素，りん等) の少ないところは、プランクトンが少なく、透明度も大きい。このような状態を貧栄養であるという。これに対し、栄養塩類が多いところで

は、プランクトンが多く透明度が小さい。このような状態を富栄養であるという。有機物による水質汚濁その他の影響で、貧栄養から富栄養へと変化する現象を富栄養化という。

浮遊物質（SS）

直径2mm以下の水に溶けない懸濁性の物質をいう。水の濁りの原因となるもので魚類のエラをふさいでへい死させたり、日光の透過を妨げることによって水生植物の光合成作用を妨害するなどの有害作用がある。また、有機性浮遊物質の場合は河床に堆積して腐敗するため、底質を悪化させる。

浮遊粉じん

大気中に、気体のように長時間浮遊しているばいじん、粉じん等の微粒子をいう。

浮遊粒子物質

浮遊粉じんのうちで、粒子径が10ミクロン（1mmの100分の1）以下のものをいう。

閉鎖性水域

地形等により水の交換が悪い内湾、内海、湖沼等の水域をいう。

例えば、茨城県においては、霞ヶ浦等がこれに該当する。

ベクレル（Bq）

放射能の単位である。1ベクレルは1秒間に1個放射性壊変をする放射性物質の量である。

保安林

水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全、形成等の公共目的を達成するための森林法に基づいて指定された森林。

放射性同位元素（放射性同位体）

同位体（アイソトープ）の中で放射性を有するもの。天然に存在するものと、人工的に作り出されるものとがあり、癌治療や農作物の品種改良など様々な分野で利用されている。

同位体

同じ元素に属する原子の間で質量数が異なる原子を互いに同位体という。（陽子数は同じであるが、中性子数が異なる。）

放射性物質

放射能を出す能力のある物質をいい、天然に存在するものと人工的につくられるものがある。放射能ということもある。

放射線

高いエネルギーの電磁波であるガンマ線や高速で飛ぶアルファ線、ベータ線、などがある。

放射線量率

単位時間当たりの放射線の量である。通常、1時間当たりの放射線量で表している。

放出源情報

原子力施設の排気筒や排水口から放出される放射性物質の種類や量に関する情報である。

マニフェストシステム

産業廃棄物の性状、取扱上の注意事項等を記載した積荷目録（以下「マニフェスト」という。）を産業廃棄物の流れに組み込み、マニフェストの管理を通じて産業廃棄物の流れをチェックすること。

ミティゲーション（代償措置：Mitigation）

開発の際に生じる環境への影響を、何らかの措置を講じて緩和するという概念であって、近年では、開発事業による環境影響を可能な限り低減していこうというもの。

措置の内容には、回避、最小化、矯正、低減及び代償（補償）がある。

有害物質

大気汚染防止法では、カドミウム及びその化合物、塩素及び塩化水素、弗素、弗化水素及び弗化珪素、鉛及びその化合物、窒素酸化物をいい、水質汚濁防止法では、カドミウム及びその化合物、シアン化合物、有機リン化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、E P Nに限る）、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物、P C B、トリクロロレチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1.2-ジクロロエタン、1.1-ジクロロエチレン、シス-1.2-ジクロロエチレン、1.1.1-トリクロロエタン、1.1.2-トリクロロエタン、1.3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカブ、ベンゼン、セレン及びその化合物をいう。

溶解導電率法

大気中の二酸化硫黄、アンモニア等の汚染物質が水にとけると電気を通しやすくなる。この性質を用いて汚染物質の量を測定する方法。

容器包装

商品の容器及び包装であって、当該商品が消費され、又は当該商品と分離された場合に不要になるもの。

溶存酸素量（D O）

水に溶けている酸素の量をいう。河川等の水質が有機物で汚濁されると、この有機物を分解するため水中の微生物が溶存酸素を消費し、この結果、溶存酸素が不足して魚介類の生存が脅かされる。さらに、この有機物の分解が早く進行すると、酸素の欠乏とともに嫌気性の分解が起こり、有害ガスを発生して水質は著しく悪化する。

横出し規制

公害関係法により法律では規制対象となっていない工場、事業場または項目について、地方公共団体が独自に条例により規制を行うことをいう。

レッドデータブック

絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップし、その生息状況を解説した資料集である。国際的には、国際自然保護連合（I C U N）が1966年に刊行した。

わが国では、平成3年に環境庁が「日本の絶滅のおそれのある野生生物（脊椎動物編）（無脊椎動物編）」を作成した。なお、植物版のレッドデータブックとしては、平成元年に（財）日本自然保護協会と（財）世界自然保護基金日本委員会が作成した「我が国における保護上重要な植物種の現状」があるが、現在、環境庁でも作成中である。

茨城県では、県版レッドデータブックのうち、植物編を平成8年度に刊行した。なお、動物編は11年度に刊行する予定である。

緑地環境保全地域

市街地、集落地及びこれら周辺地における樹林地、水辺地やこれらに類する自然環境を有する土地のうち、自然環境を保全することが特に必要な区域として、県自然環境保全条例に基づき指定される地域をいう。